

早期成果実現課題に対する 取り組みの概要

早期成果実現課題① 渋滞ボトルネック対策

○主要渋滞ポイントの交通状況、周辺の用地について調査し、短期で対策できる交差点を抽出し、対策を実施、検討

○短期で対応できる場所（既存道路用地内等で交通阻害要因の除去が可能）の状況は以下のとおり

対象交差点：45箇所のうち、対応済：26箇所、令和元年度実施予定：18箇所、令和2年度以降：1箇所

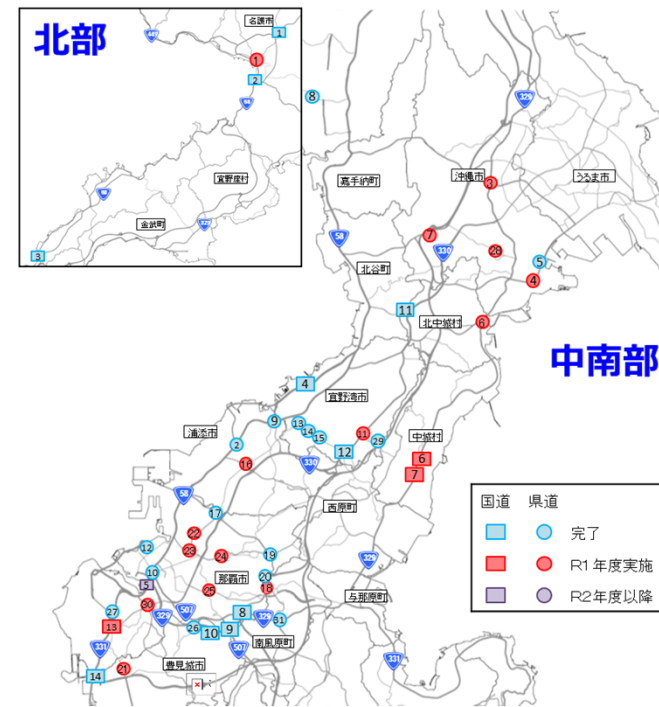
（国道：14箇所のうち、対応済：10箇所、令和元年度実施予定：3箇所、令和2年度以降：1箇所）
（県道等：31箇所のうち、対応済：16箇所、令和元年度実施予定：15箇所）

45箇所中、令和元年5月までに26箇所完了

	完了	R1実施		R2以降	計
		完了予定	継続		
国	10	3	0	1	14
県等	16	15	0	0	31
計	26	18	0	1	45

県道等

国道		番号	交差点名	番号	交差点名
1	伊差川(北)	1	城十字路	16	無名(山城石道前)
2	世富慶	2	城間	17	古島(西)
3	仲泊	3	美里	18	新川
4	無名(宜野湾海浜公園入り口)	4	泡瀬	19	鳥堀
5	明治橋	5	無名(サンエー泡瀬衣料館前)	20	無名(芸大首里崎山キャンパス近く)
6	奥間	6	渡口	21	名嘉地(北)
7	無名(奥間南)	7	沖縄南IC	22	県立博物館前
8	上間	8	越辺入口	23	安里一丁目
9	仲井真	9	牧港	24	松川
10	嘉数	10	旭橋	25	寄宮
11	瑞慶覧	11	長田	26	真玉橋(南)
12	我知古	12	菟狭交差点	27	安次嶺
13	赤嶺	13	無名(真栄原十字路~大謝名)	28	無名(高原2丁目)
14	瀬長	14	無名(真栄原文番前)	29	無名(県田小字附近)
		15	真栄原	30	山下(南)
				31	兼城



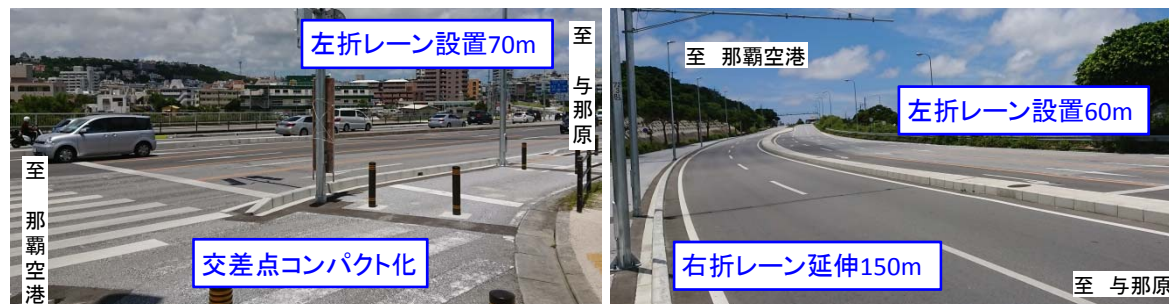
課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】	【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	H28時点 現況	H29	H30		H31(R1)		R2～
					前期	後期	前期	後期	
渋滞ボトルネック対策	③ 渋滞ボトルネック箇所での交差点改良、立体化	【渋滞協】 ◎沖縄局 開発建設部 ◎沖縄県 土木建築部 ○関係市町村	対応済 国: 仲泊, 上間, 我知古 県: 安次嶺(ほか5箇所)	対策済み 国: 伊差川(北)、世富慶、無名(宜野湾海浜公園入り口)、瀬長 県等: 真玉橋(南)、旭橋、城間、若狭、無名(長田小字近く)	対策済み 国: 仲井真、嘉数、瑞慶覧 県: 無名(サンエー泡瀬衣料館前)、牧港、古島(西)、鳥堀、無名(芸大首里崎山キャンパス近く) ※国施工2箇所、県施工6箇所		R1実施予定箇所 国: 赤嶺 県: 城十字路、美里、新川、名嘉地(北)、県立博物館前、無名(高原2丁目)、無明(山城石道前)、松川、寄宮		R2実施予定箇所 国: 明治橋
				H30実施箇所 国: 奥間、無名(奥間南)、仲井真、嘉数、瑞慶覧 県: 無名(芸大首里崎山キャンパス近く)、鳥堀、古島(西)、牧港、泡瀬、沖縄南IC、長田、無名(サンエー泡瀬衣料館前)、安里一丁目、山下(南)	事業化検討推進 国: 明治橋、赤嶺 県: 名嘉地(北)ほか7箇所				

■国道329号：嘉数交差点対策実施前後の交通状況【整備効果】

■対策概要

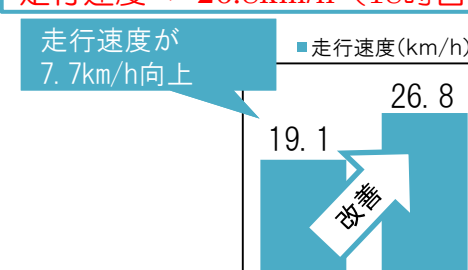
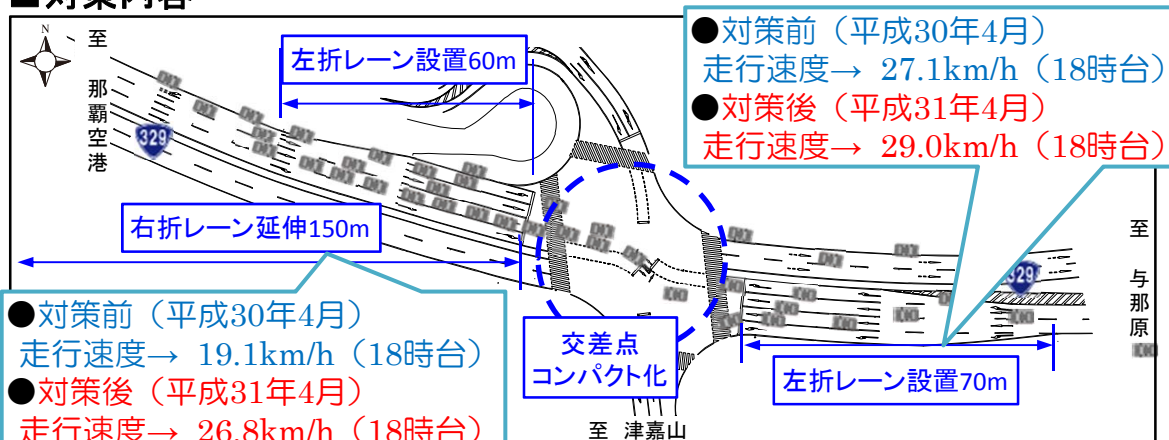
- ・ 国道329号において、那覇空港方面からの右折滞留が延伸し、後続直進交通を阻害
- ・ 国道329号において、中央分離帯の撤去によって交差点のコンパクト化を図るとともに、那覇空港方面からの左折レーンを設置、津嘉山方面への右折レーンを延伸、また与那原方面から津嘉山方面への左折レーンを設置

■対策実施状況

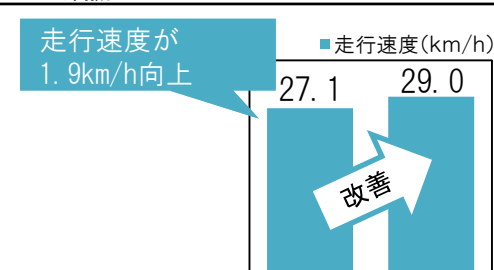


対策実施後(R1.6.7撮影)

■対策内容



対策前 対策後



対策前 対策後



■国道330号:瑞慶覧交差点対策実施前後の交通状況【整備効果】

■ 対策概要

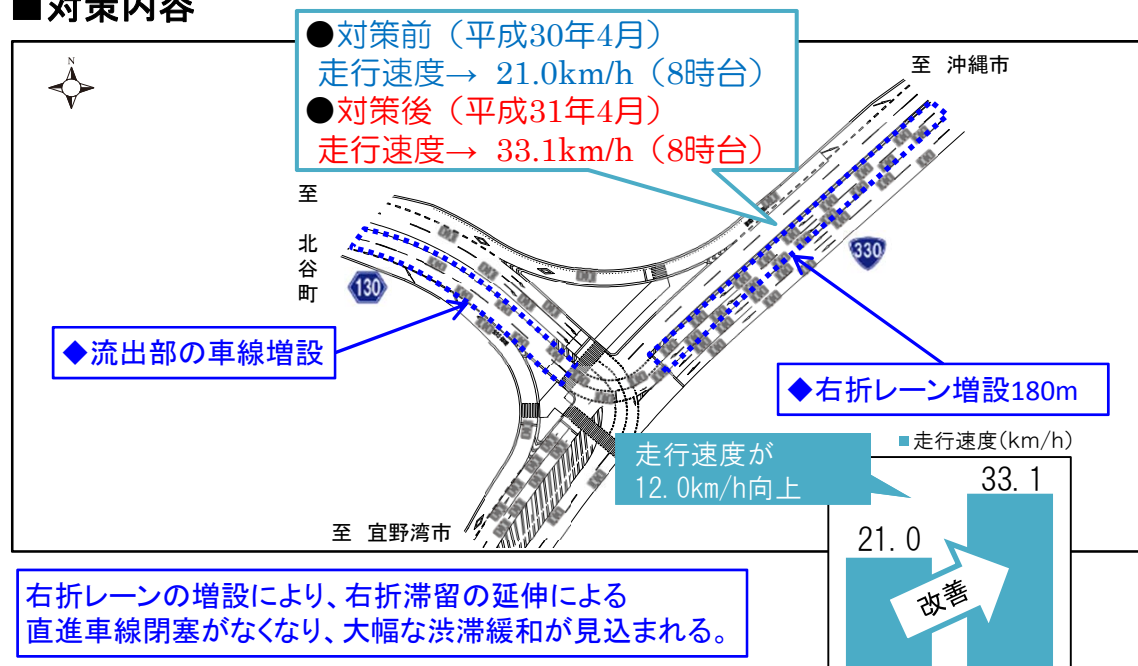
- ・沖縄市方面からの右折滞留が延伸し、後続直進交通を阻害
- ・流入右折車線数を増加((直・直・右)→(直・右・右))するとともに、右折後流出部の車線数を増設(1→2)

■ 対策実施状況



対策実施後(H31.3.27撮影)

■ 対策内容



対策前 対策後

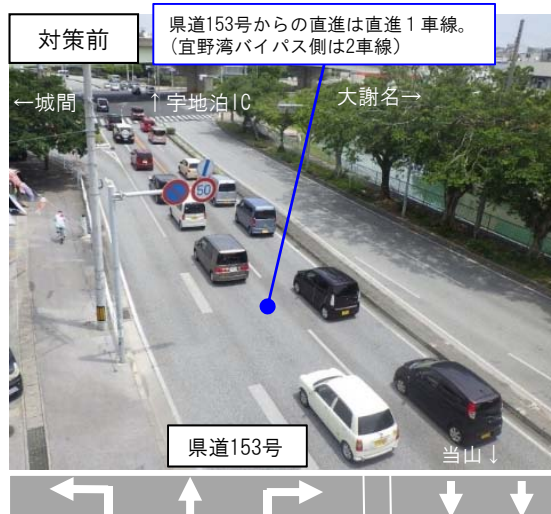
出典：プローブデータ(対策前平成30年4月平日・対策後平成31年4月平日) ①-3

■県道153号線バイパス:牧港交差点対策実施前後の交通状況【整備効果】

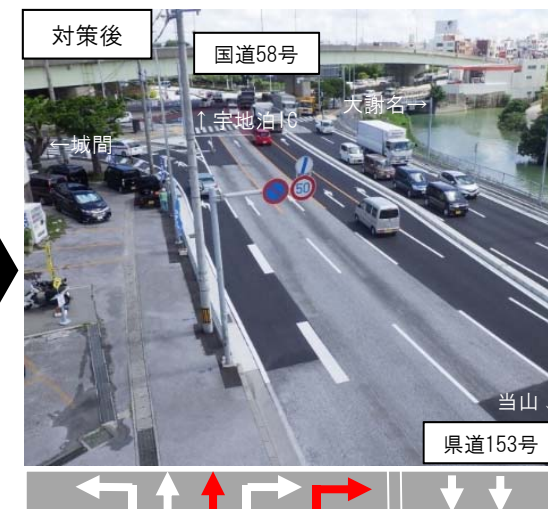
■対策概要

- 県管理である県道153号線バイパスにおいては、朝の通勤時間帯において、当山方面から宜野湾バイパス向けの直進や、那覇向けの左折の交通量が多く、交差点の容量不足により慢性的に渋滞
- 西海岸道路の浦添北道路の開通に伴い、県道153号線バイパスから宜野湾バイパスへの直進車線を2車線に拡大し、大謝名方面への右折車線を2車線化することで交通容量を拡大

■対策前後の状況



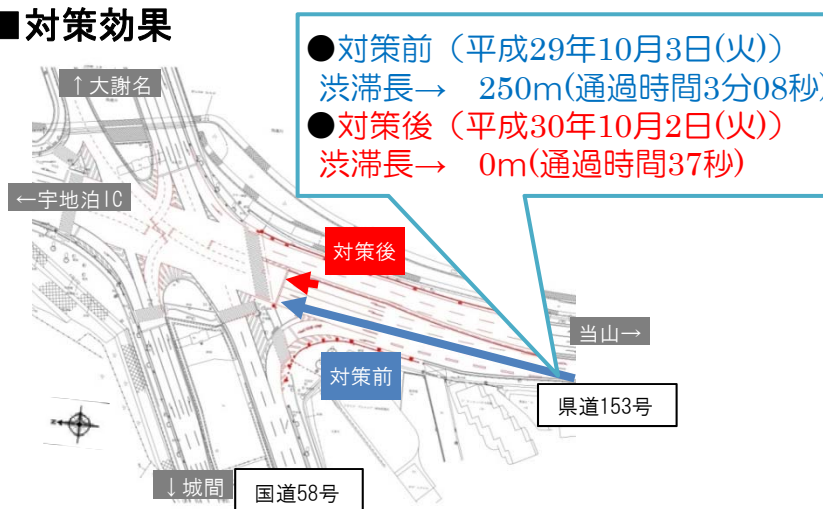
(対策前) 県道153号線バイパスから国道58号へ、直進(宇地泊IC)及び左折(城間)の交通量が多く渋滞



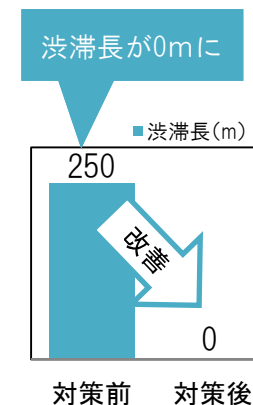
(対策後) 直進2車線化、右折2車線化を実施



■対策効果



- 対策前 (平成29年10月3日(火))
渋滞長→ 250m(通過時間3分08秒)
- 対策後 (平成30年10月2日(火))
渋滞長→ 0m(通過時間37秒)



■国道330号:旭橋交差点対策実施前後の交通状況【整備効果】

■対策概要

- 本交差点はモノレール旭橋駅に隣接し、本県の骨格的な幹線道路である国道58号と国道330号及び国道390号との交差点であり、朝夕本交差点箇所の通勤通学時間帯は、慢性的な交通渋滞が発生
- 県管理である国道330号においては、壺川方面から西町向けの直進車線と国道58号久茂地交差点向けの右折車線が激しく渋滞し、隣接する旭町交差点を超えて車両が並ぶ場面も見られた
- 短期的な渋滞対策として、国道330号から国道58号への右折車線を2車線に拡大

■対策前後の状況



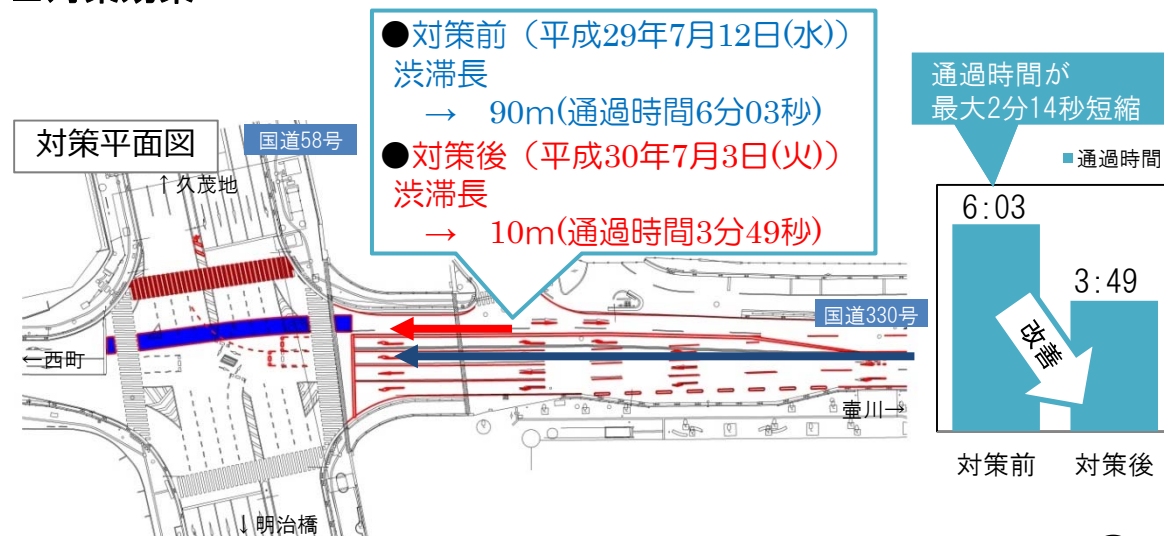
(対策前) 国道330号から国道58号へ、直進(西町)及び右折(久茂地)が渋滞



(対策後) 右折(久茂地)を1車線追加し、右折2車線へ対策を実施



■対策効果



■国道331号:赤嶺交差点

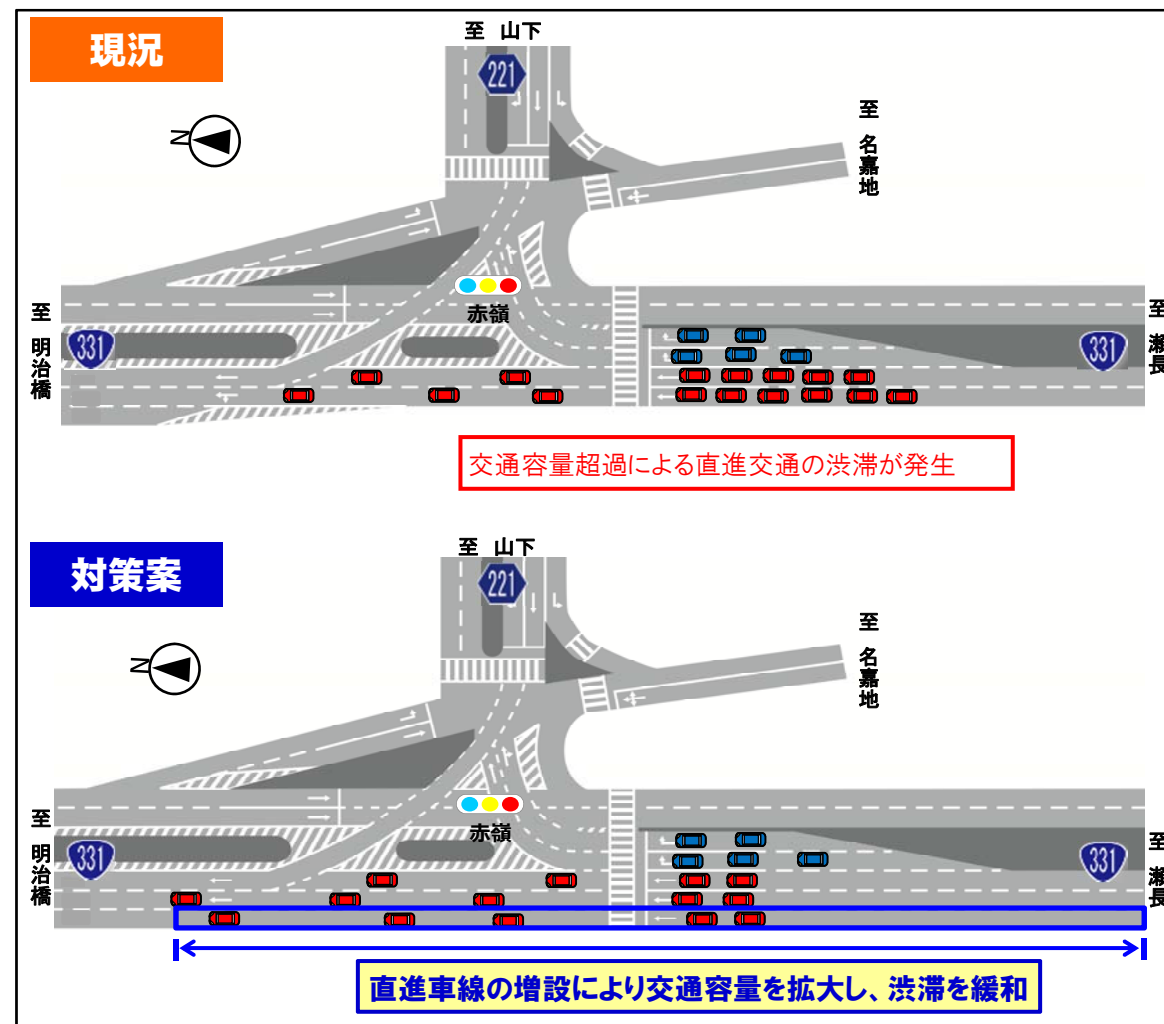
■渋滞状況・要因

- 那覇市中心部(県庁方面)へ向かって容量を上回る交通量が集中し渋滞が発生

■対策概要

- 那覇中心部へ向かう直進車線の増設を予定(2車線→3車線)

■対策内容



■那霸北中城線：松川交差点

■ 渋滞状況・要因

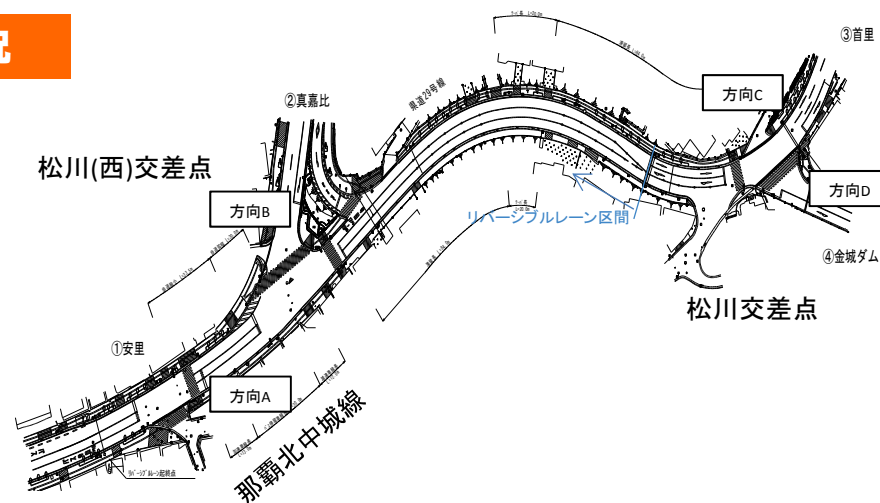
- ・ 松川交差点右折車(至方向D)及び松川(西)交差点右折車(至方向B)による直進車の阻害
- ・ 両交差点の間でリバーシブルレーン運用中

■ 対策概要

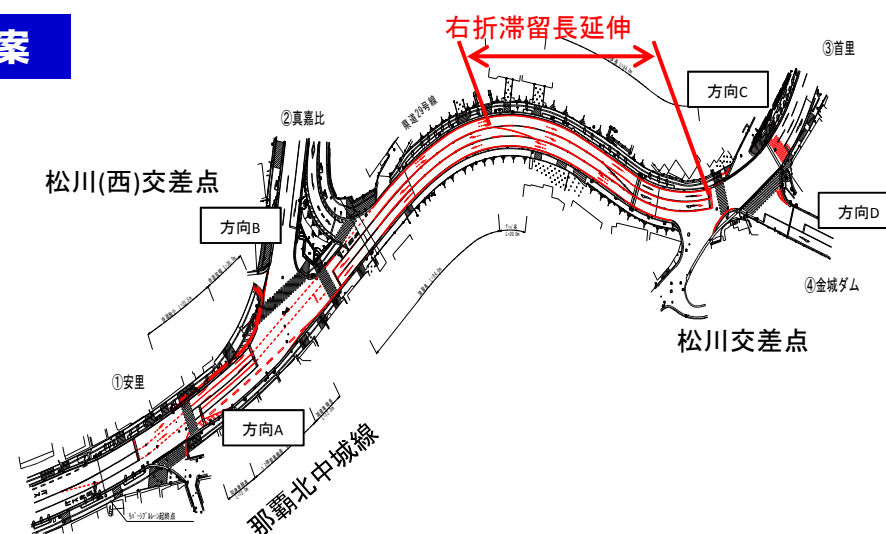
- ・リバーシブルレーンの一部廃止による右折滞留長延長
- ・R1年度完了予定

■ 対策内容

現況



对策案



※現在、県警と協議中のため変更になる可能性有



■真地久茂地線：寄宮交差点

■渋滞状況・要因

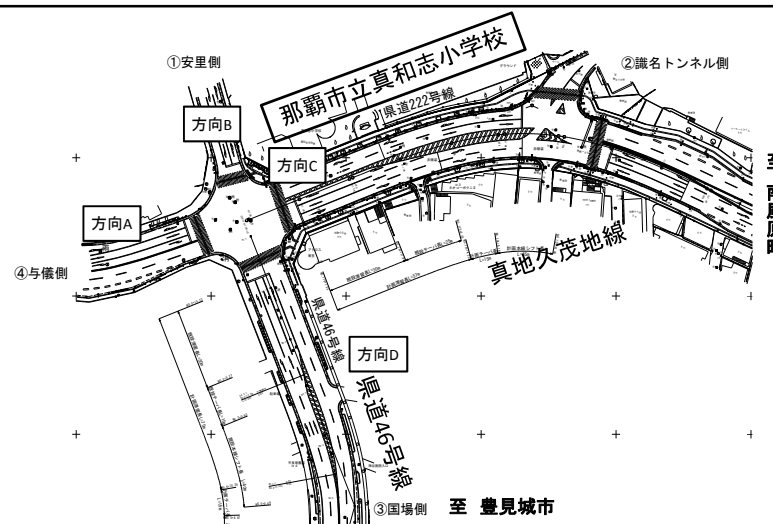
- ・ 南風原町方面からの左折車(至方向D)による直進阻害、豊見城市方面からの右折車(至方向C)の右折車による直進阻害

■対策概要

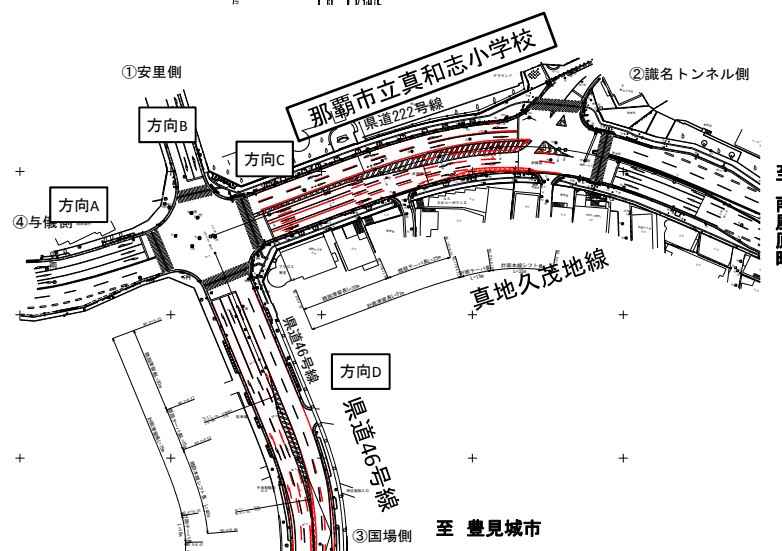
- ・ 方向Cの左折帯新設、方向Dの右折滞留延長
- ・ R2年度完了予定

■対策内容

現況

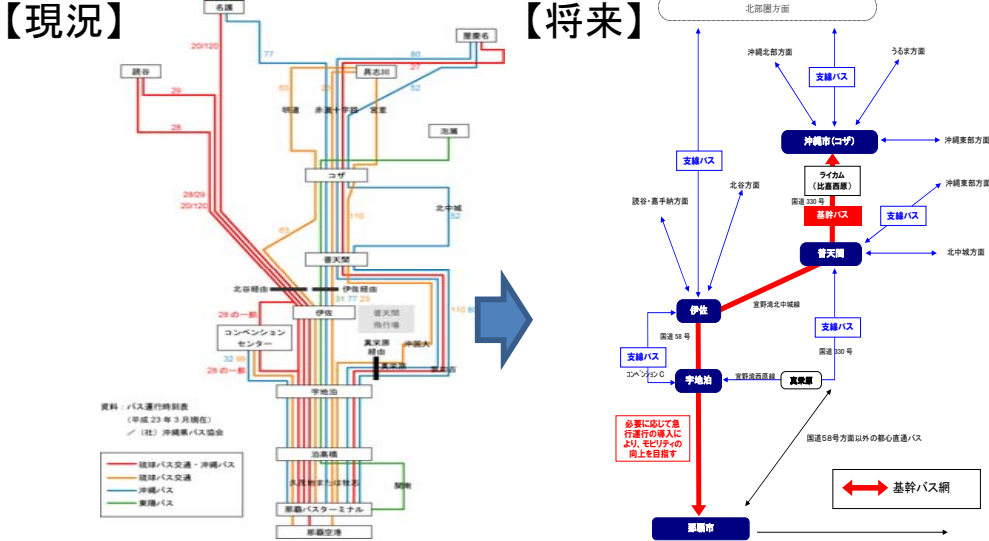


対策案

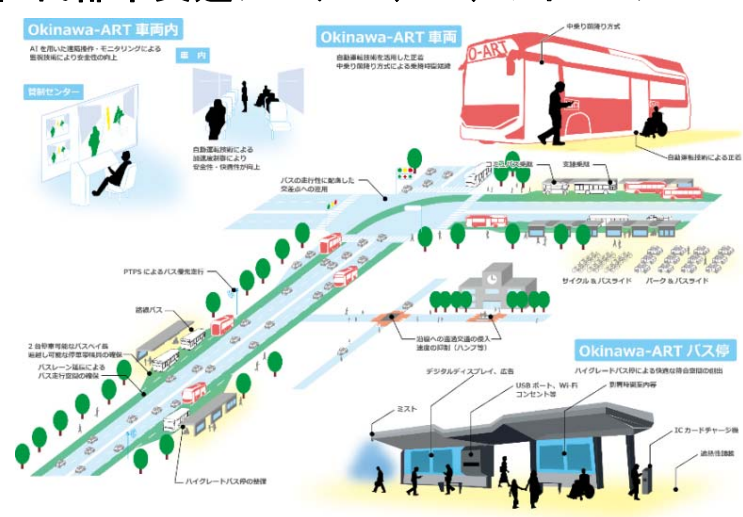


- R元年度の基幹バス導入と連携した、沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）にむけた取り組みを実施
- ◆H29.7.31に沖縄次世代都市交通システム（Okinawa-ART）検討会を発足
- ◆H30.6.5に第2回検討会を開催し、沖縄次世代都市交通システムの目標、具体施策、最終イメージを決定
- ◆R元年度10月中の実施を目途に那覇BT～コザ間で基幹急行バスの運行開始に取り組む

●基幹バスを中心としたバス網再編のイメージ



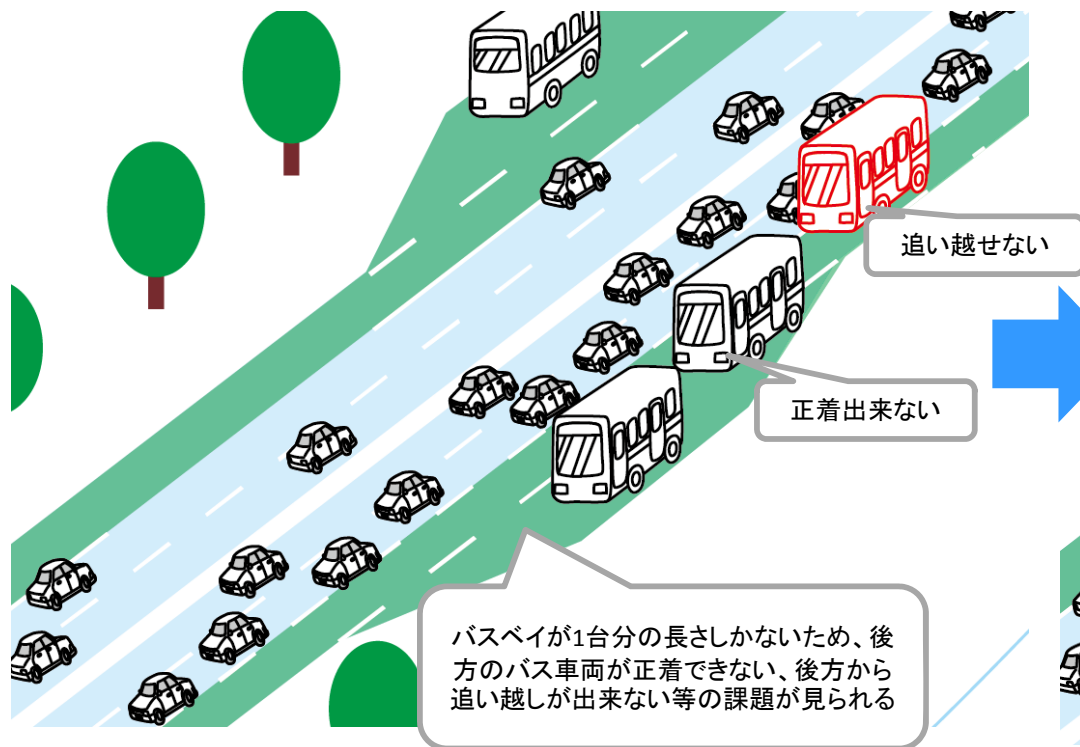
●次世代都市交通システム（ART）のイメージ



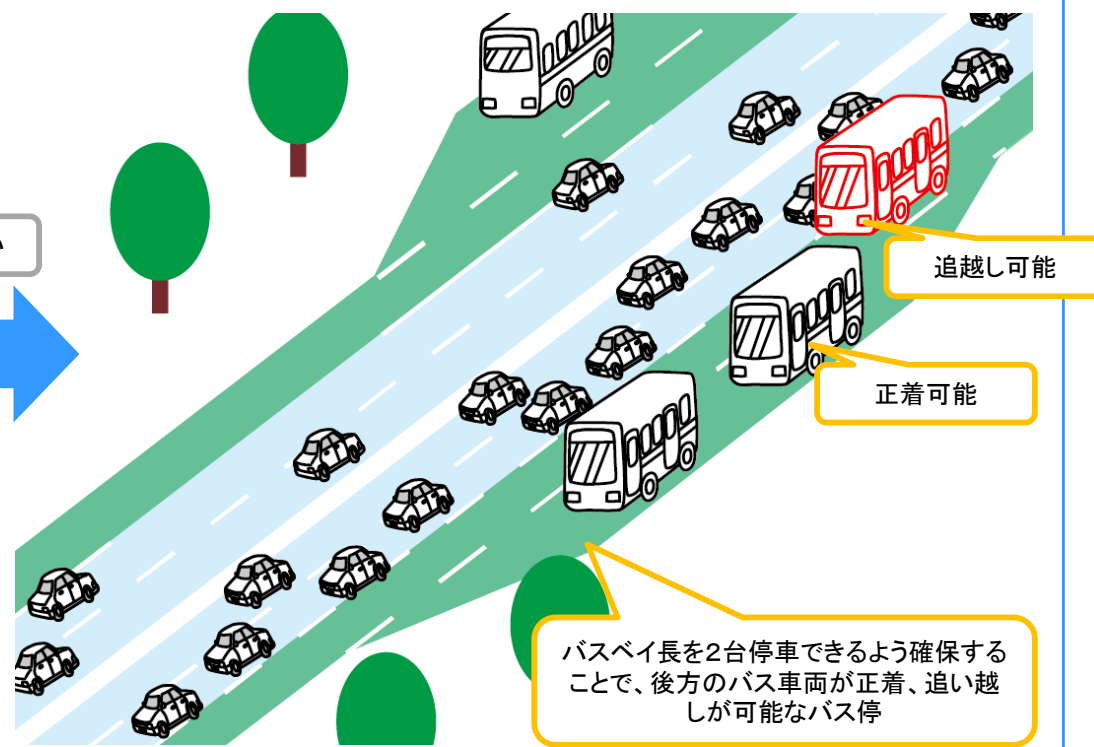
課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】		【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)		H28時点	H29	H30		H31 (R1)		R2～
					現況		前期	後期	前期	後期	
基幹バスの導入、 バス網再編	11	那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画に基づく基幹バス(BRT等)の導入に向けたバス網再編	◎【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎バス事業者 ◎沖縄局 運輸部			急行バス実証実験				●基幹急行バス運行開始(令和元年10月)	
	12	県民及び観光客にとって使いやすくなりやすいバス待ち環境の改善や、バス網再編の検討	◎【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 開発建設部 ◎バス事業者 ◎沖縄局 運輸部			基幹バス導入の検討	●浦添北道路・臨港道路浦添線供用		段階的なバス網再編実施		段階的なバス網再編実施
	13	自動運転技術を活用したバス交通(基幹バス、コミュニティバス等)の活性化を図るための社会実験の実施	◎沖縄局 開発建設部 ◎関係市町村 ◎バス事業者			バス網の再編検討(バス事業者との調整)					
						上屋等のバス待ち環境改善(上屋整備)・(バス停上屋維持管理体制の検討)					
						自動走行バス実証実験			本格導入		本格導入
						第Ⅰステップ 南城市で基本的な技術実証実験	第Ⅰステップ 石垣島で社会実証実験	第Ⅱステップ 本島内での高度な実証実験	第Ⅲステップ より高度な実証実験		
						基幹バス等への自動運転技術及び関連技術導入検討					
						自動運転技術及び関連技術を活用したバスベイ、上屋等の整備(ハイグレードバス停、ロングバスベイの設置)					●ハイグレードバス停の設置(農林中金前、比嘉西原) 令和元年7月供用
						●沖縄次世代都市交通システム検討会発足					

- バス遅れ時間発生の要因である、「バス停での混雑」を解消する取組として、バスベイ長の拡充
- 今年度実施予定の「基幹バスの導入」に向け、基幹バス停車バス停を中心にバスベイ長を拡充

現況



整備イメージ



取組の実施

- 令和元年7月、基幹バスルートにおいて、バスベイ長を拡充した2箇所(農林中金前・比嘉西原)のバス停を供用開始
- 基幹バスルートにおいて、バスベイを新設する場合は十分な長さを確保
- 既存区間のバス停においても可能な限り拡充を実施(予定)

○高機能バス停のハード面(ロングベイ、上屋等)・ソフト面(サイネージ等)の整備内容を検討

- バスベイは2台同時停車(バス長12m・9m)を前提
- 対象箇所:農林中金前(コザ方面行)・ライカム周辺の比嘉西原(那覇方面行)の2箇所

対象箇所位置図

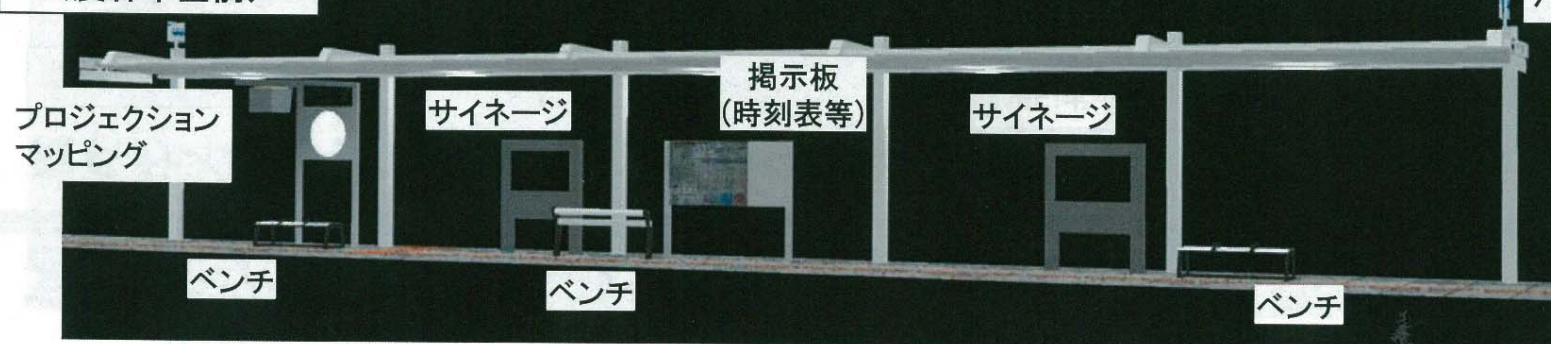


比嘉西原バス停
(那覇向け)

農林中金前バス停
(コザ向け)

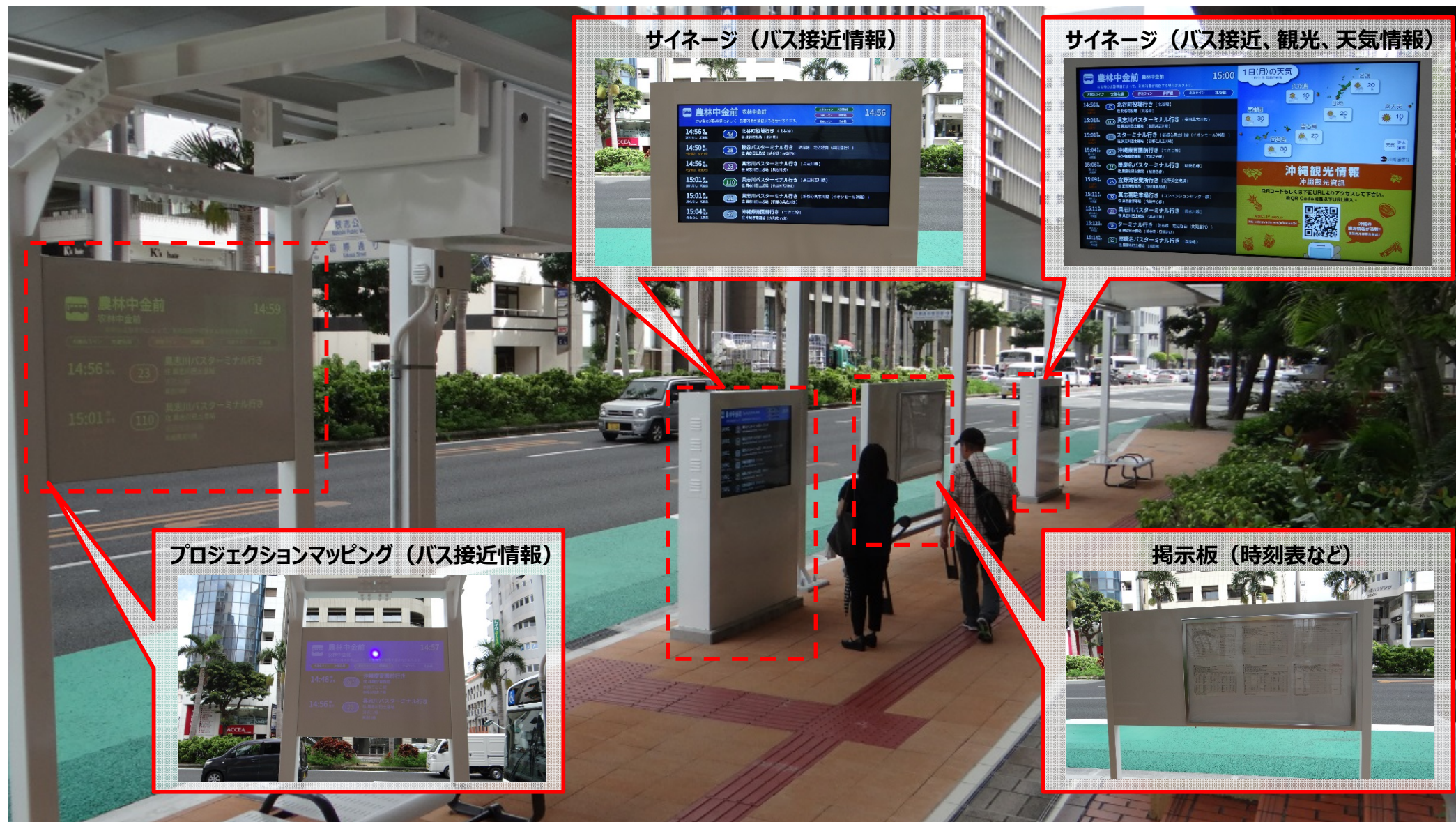
項目	整備内容	農林中金前	比嘉西原	備考
バス停 上屋・基礎	2台同時停車に対応したバス ベイ及びバス停上屋	延長:25m 幅:2.0m 高さ:3.5m	延長:20m 幅:2.0m 高さ:2.5m	農林中金前はプロジェクションマッ ピングを設置することから建築限界 のプラス1m
冷却機能	ミストシャワー (気温30℃、湿度70%で稼働)		○	広範囲の気温を低減できるため、 周りに日光を遮る構造物がない比 嘉西原は採用
	遮熱性舗装・ILB	○(ILB)		夏季日中のアスファルト舗装路面 と比較し約10度表面温度が抑えら れる。
案内表示・ 情報提供装置	プロジェクションマッピング →時刻表・バスロケ情報等の 案内を壁面表示	○(1面)		農林中金前はビルが隣接し、午後 は日陰になることから比較的明度 が低く、光度の高いプロジェクタで あれば視認可能。サイネージと比較 し、安価に構成可能。
	サイネージ(画面型) →時刻表・バスロケ情報等の 案内	○(2面)	○(1面)	サイネージは輝度の高い2000ルー メン以上の製品であれば明るい場 所でも視認可能と想定。
情報提供装置	フリーWi-fiアンテナ	○	○	Be.Okinawa

バス停全体イメージ
(農林中金前)



バス停看板





農林中金前バス停（コザ向け）



比嘉西原（ひがいりばる）バス停（那覇向け）

○令和元年度は、アンケート調査を行い整備効果の検証を実施する予定

○沖縄県内では、平成29年3月に南城市、6月に石垣市で実験が実施され、11月からは沖縄本島内（北中城村～宜野湾市）の比較的交通量が多い公道での実証実験を実施。

○また、平成31年2月には全国初となる大型路線バスによる交通量の多い公道での実証実験を実施しています

◆南城市実証実験(H29.3～4)

ー全国初となる公道での自動運転ー

- ・正着制御の精度、車線維持制御の検証
- ・走行状況データ収集・モニタリング、運行管理等のシステム検証 等



◆石垣市実証実験(H29.6～7)

ー公道での自動運転距離が日本最長ー

- ・正着制御の精度、車線維持制御の検証
- ・自動的な車線変更による障害物回避の検証
- ・信号情報を活用した速度抑制制御の検証 等



◆沖縄本島内における実証実験(H29.11.1～12.13)

ー交通量が多い公道での実験ー

- ・準天頂衛星を利用した車線走行制御性能の検証
- ・高精度三次元地図を利用した走行制御の検証
- ・磁気マーカーを利用した正着制御性能の検証
- ・制御技術・センシング技術の向上に向けたAI技術の活用可能性の検証
- ・加減速制御の活用による車内転倒事故の減少、乗り心地改善の検証 等



◆那覇空港～豊崎における実証実験(H31.2～3)

ー全国初となる大型路線バスによる公道での実験ー

- ・多様な条件下での高度な正着、加減速最適制御の安定性・信頼性の検証。
- ・法定速度上限(50km/h)での車線維持・減速制御の検証
- ・一般利用者や乗務員へのアンケート調査による必要性評価 等



○基幹バスの取り組みの一環として、現在の急行バス、特急バスを一本化し、速達性に優れる「**基幹急行バス**」の運行を開始します。

1 運行開始時期

○ 10月中旬に本格運行。

2 運行ダイヤ

○ 現在の「急行バス」+「特急バス」のダイヤを基本とする。

3 停車バス停

○ 「基幹急行バス」は、停車バス停についても一本化する。

- ・現在の急行バスのバス停に「新城」を追加。
- ・現在の特急バスのバス停に「比嘉西原」を追加。
- ・現在、特急バスのみが停車する「若松入口」は、事業者において検討の結果、停車しない。

停車バス停名	那覇BT	県庁北口	農林中金前	若松入口	泊高橋	上之屋	第二城間	宇地泊	伊佐	新城	普天間	比嘉西原	山里	中の町	胡屋	コザ	合計
急行バス(現行)	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	15
特急バス(現行)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	15
基幹急行バス	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15

※【○】 停車バス停

○バス利用者の利便性を目的としたバス待ち環境の改善に向け、バス停での広告について検討

全国での取組事例



野多目小学校前バス停(福岡国道整備)

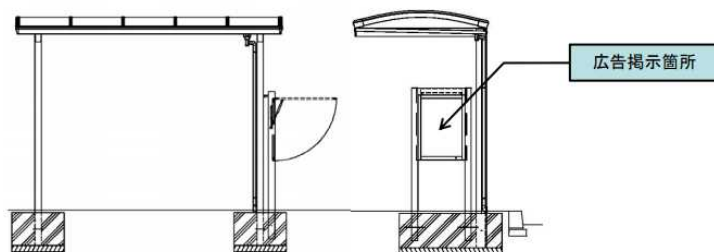


出典)岡山市HP 岡山市景観まちづくり賞受賞作品集

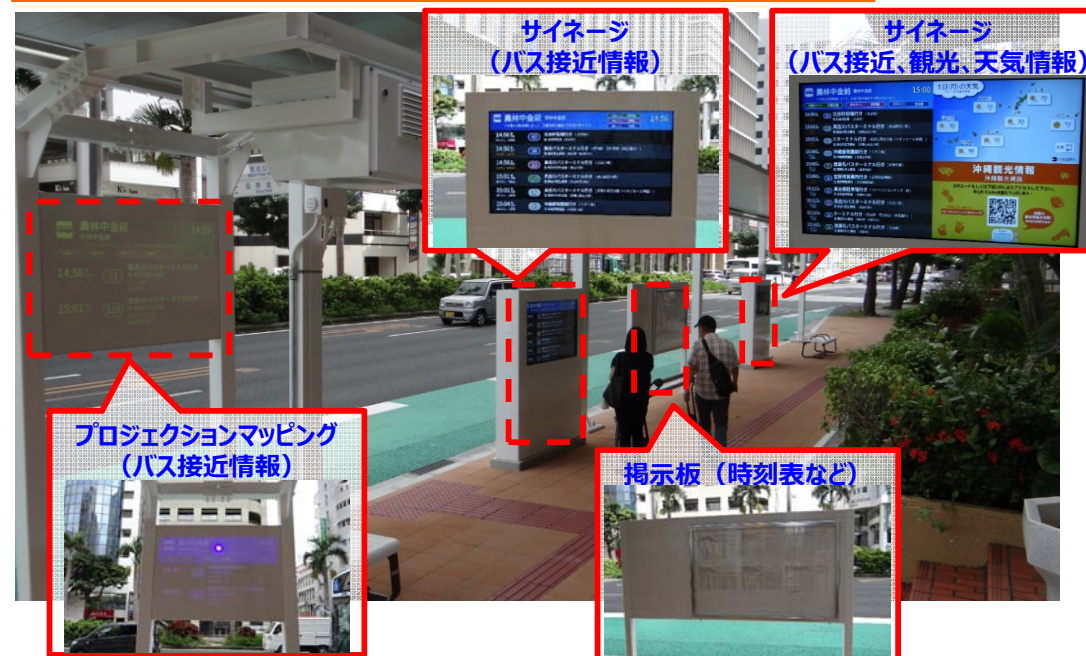
沖縄での検討状況(高機能バス停[再掲])

バス停上屋の広告掲示イメージ

※上屋本体はH26.3に整備済



令和元年度は、バス停に広告が可能となるように広告物条例改正に向けた取り組みを実施



早期成果実現課題③ バス運行定時性の確保

- 基幹バス区間の定時・速達性を高めるため、全区間(久茂地～コザ)にバスレーン延長拡充を実施
- ◆平成30年度において、大謝名～伊佐間のバス専用レーン運用を開始
- ◆令和元年以降は、伊佐～コザ間へのバスレーン延長、久茂地～伊佐間の終日バス優先レーン化を予定

※久茂地～伊佐間<step1: 朝夕専用化、STEP2: 終日優先化、STEP3: 終日専用化>
伊 佐～コザ間<step1: 朝夕優先化(瑞慶覧迄)、STEP2: 朝夕優先化(コザ迄)、STEP3: 終日優先or専用化>

現在のバスレーン区間(久茂地～伊佐)



将来のバスレーン区間(久茂地～コザ)



課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】	【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	H28時点	H29	H30		H31 (R1)		R2～	
			現況		前期	後期	前期	後期		
バス運行定時性の確保	14	浦添北道路・臨港道路浦添線開通にあわせた、バスレーンの延長の検討	【県公共交通協】 ◎沖縄総局 開発建設部 ◎沖縄県 土木建設部 ◎沖縄県警 ◎沖縄県 企画部 ○関係市町村 ○バス事業者	久茂地 ～ 伊佐	(平成27年度から実施)国道58号バスレーン延長 朝夕専用化		効果検証		終日 優先化	終日専用 レーン化
				伊佐 ～ コザ	朝夕優先検討				朝夕 優先化	終日優先化or 終日専用化
				効果検証・合意形成						
				PTPSの車載器導入・運用		効果の検証				
				●浦添北道路・臨港道路浦添線供用						

平成30年度に実施したバスレーン延長の取組み(平成30年度実施済)

○平成31年2月12日より国道58号、夕方北向き、大謝名～伊佐間のバス専用レーンを延長。



よりよい沖縄のために。
2019年 2月12日より
バスレーン延長



<周知>



<周知活動>



<カラーリング>

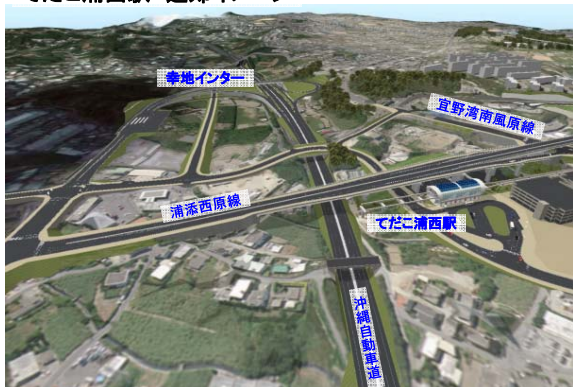
○令和元年度は、H30.2延長したバスレーンの効果検証を踏まえ、コザまでのバスレーン導入方針を検討予定

早期成果実現課題④ バスターミナル等の整備推進

- 異なる交通モード間の乗り継ぎ、基幹バス及び支線バスの乗り継ぎに必要となる交通結節点の整備
- モノレール延長区間でだこ浦西駅では、追加IC整備、P&R等、多様な交通モードの乗り継ぎが可能となる交通結節点を整備
- ◆平成30年度は、過年度に引き続き商業施設での交通結節機能の創出に取り組むとともに、那覇バスターミナルの供用を開始
- ◆令和元年度は、モノレールでだこ浦西駅の開業に合わせ、駅周辺が交通結節点としての機能開始を予定

●てだこ浦西駅周辺整備のイメージ

てだこ浦西駅 近郊イメージ



てだこ浦西駅 完成イメージ



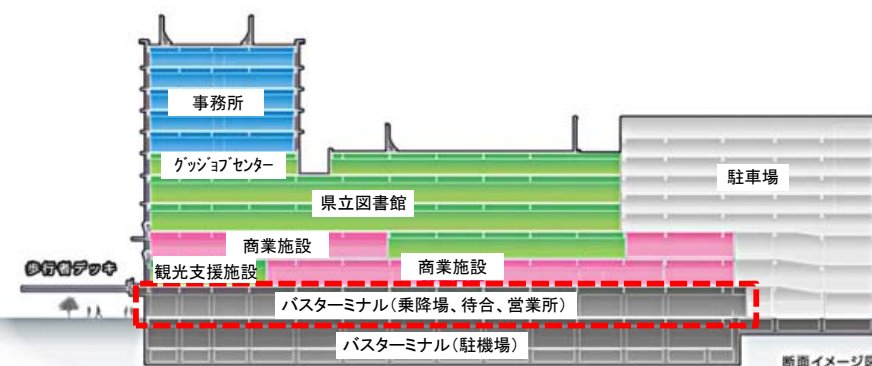
●大型商用施設を活用した交通結節点の整備イメージ



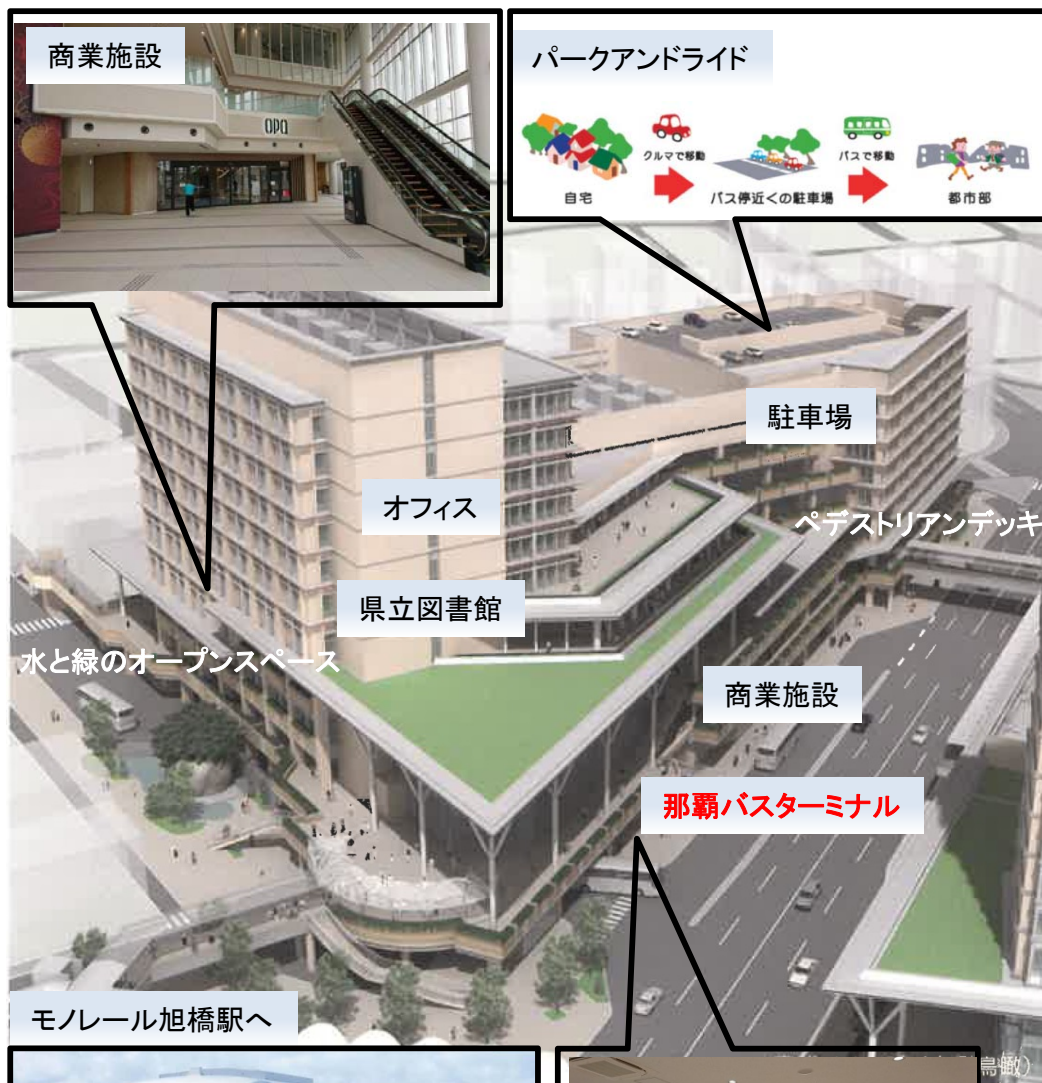
課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】	【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	H28時点	H29	H30		H31 (R1)		R2～
			現況		前期	後期	前期	後期	
バスターミナル等の整備	19	モノレール結節点(那覇バスターミナル、てだこ浦西駅等)の整備 ◎旭橋都市再開発(株) ○沖縄都市モノレール(株) ○沖縄県 土木建築部 ○関係市町村	旭橋駅結節点整備	てだこ浦西駅の周辺事業(P&R等)整備		●那覇バスターミナル開業		●モノレール延長部供用 ●P&R駐車場	
	20	基幹バス結節点(コザ等)の整備に向けた検討 【県公共交通協】 ◎沖縄県 企画部 ◎関係市町村 ○バス事業者 ○沖縄局 開発建設部	整備内容の検討、事業者等との調整(地域、施設規模、運営方法等)・整備(基幹バス導入に合わせ段階的に整備)					●基幹急行バス運行開始(令和元年10月) 基幹バスの運行に伴う交通結節点の検討	
	21	商業施設等を活用した交通結節機能創出の検討 ◎沖縄局 運輸部 ◎民間事業者(商業施設) ◎バス事業者 ○沖縄局 開発建設部 ○沖縄県 企画部	調査検討	関係機関調整 提供バス運行実証実験	本格導入に向けた調整		本格運用、商業施設への展開		
					商業施設以外におけるバス運行情報提供実証実験				

○交通結節点機能を強化するため、バスターミナル地区の再開発事業を推進、平成30年10月に那覇バスターミナルが開業。

○多言語案内システムを構築（出発・到着時間のリアルタイム情報、バス路線図や観光施設への路線案内等）



○那覇バスターミナル開業（H30.10.1開業）による利便性向上により、バスやモノレール（旭橋駅）の利用者増加を期待。



【情報提供内容】

○出発・到着、遅れ時間のリアルタイム情報



のりば	番号	行先	発車時刻	遅れ
1	先発 [90]	知花線	9:05	
2	先発 [43]	北谷線	9:23	
3	先発 [28]	徳志・徳志 読谷線	9:02	
4	先発 [63]	久茂地 謝坊線	9:00	遅
5	先発 [77]	久茂地 名護東線	9:01	
6	先発 [40]	第二団地 大里線	9:10	
7	先発 [37]	森川 那覇新開線	9:13	
8	先発 [6]	那覇おもろまち線	9:10	
9	先発 [98]	琉大線	8:45	遅
10	先発 [89]	糸満線	8:55	遅
11	先発 [111]	名護 高速バス	8:56	

○観光地までの乗継情報

目的地（観光地）を選択
→ 乗継情報

多言語選択



- これまで、バス路線が集中する幹線道路で利用者の多く見込まれる施設等におけるバス待合スペースの設置、デジタルサイネージ等によるバス運行リアルタイム情報の提供、バス情報の多言語化などの環境を整え、実証調査を実施
- 平成30年度には新たに【サンエー那覇メインプレイス】においてデジタルサイネージによる情報提供の実証を実施

商業施設との連携

平成29年度 イオンモール沖縄ライカム

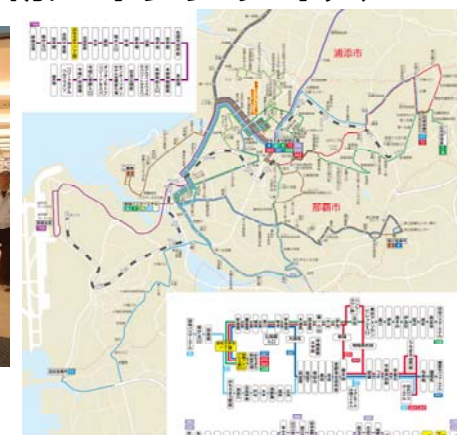


行き先	バス番号	バス名	発車時間
那覇・空港・おもろまち・北谷方面	21	那覇BT NAHA BT	10:00
那覇BT NAHA BT	23	那覇空港 NAHA Airport	10:03
那覇BT NAHA BT	25	那覇BT NAHA BT	10:05
上原 KAMIZUMI	27	上原 KAMIZUMI	10:08
那覇空港 NAHA Airport	33	那覇空港 NAHA Airport	10:10
北谷町役場 CHATAN-CHO CH	31	北谷町役場 CHATAN-CHO CH	10:15



多言語リーフレット

平成30年度 サンエー那覇メインプレイス



路線系統図

公共施設、病院との連携

平成30年度 おもろまち駅前広場

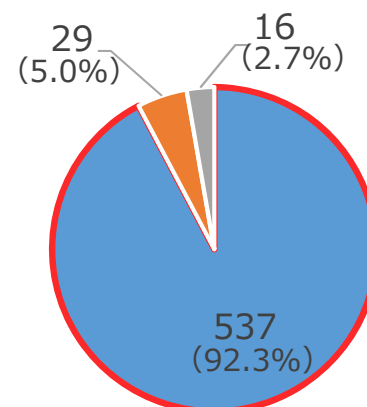


中部徳州会病院 (既設のモニターを利用)



<実証結果・今後>

■ 利用者における継続要望（サンエー）【N=582】



- ・多くの利用者が継続を要望。
- ・令和元年度は、施設側において実装化に向け調整中。

■ 今後も続けるべき ■ あまり必要ない ■ 不要

○高架橋の桁下空間を活用しサイクル&ライド実証実験を実施。

■サイクル&ライド

高架下空間を活用したサイクル&ライド実証調査（平成31年1月28日～3月31日）

バス停の利用の利用圏は、徒歩では300mされているが、自転車を利用することによりその圏域は1,500mまで広がるとされている。

本実証では、自転車駐輪場をバス停近くに整備することにより、自転車とバスを結節することによる、バス利用促進を図ることを目的とする。



安謝橋高架下空間を利用した自転車駐輪場の設置

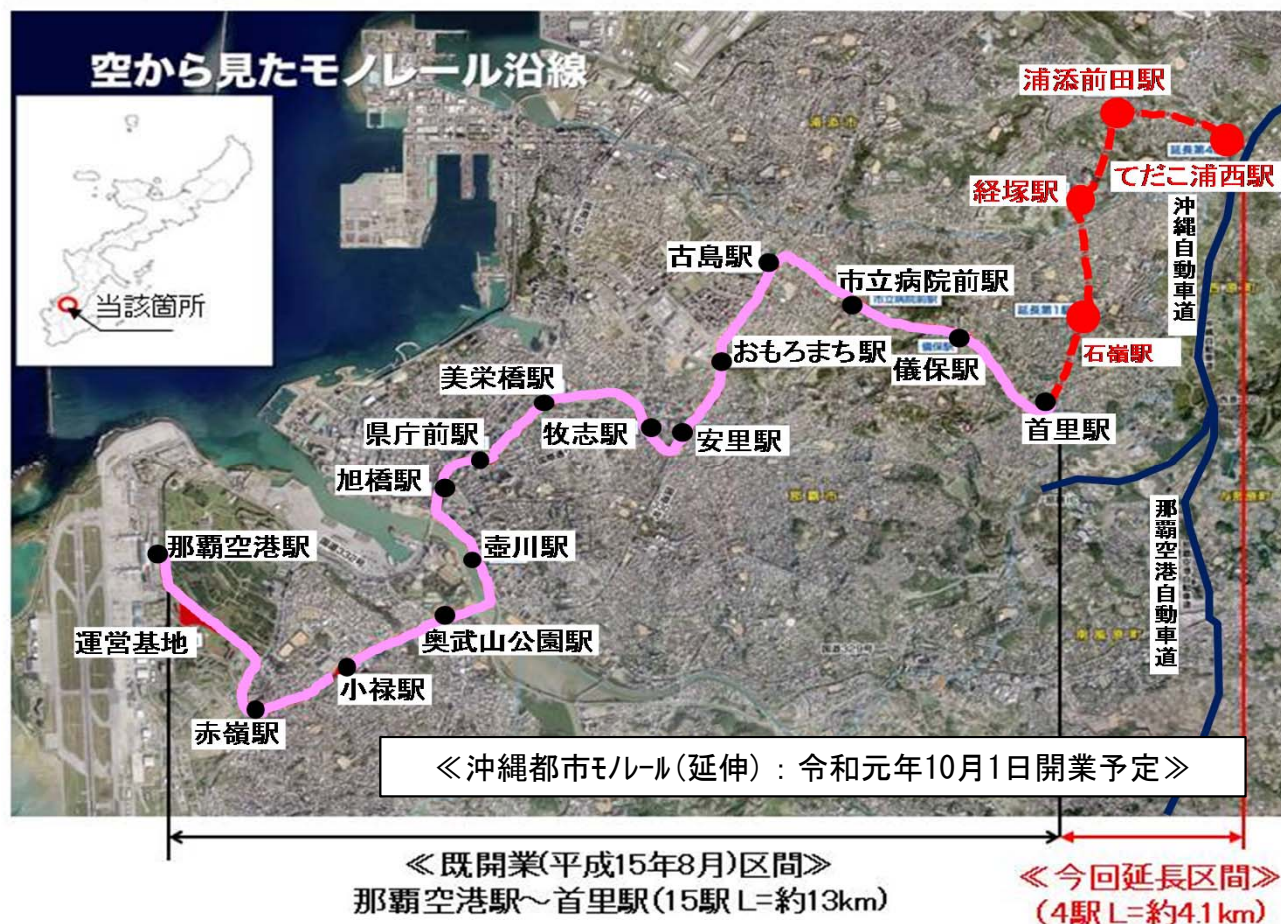
利用パターン①：自転車で当駐輪場に来て、バスで目的地に向かう



利用パターン②：バスで当駐輪場に来て、自転車で目的地に向かう



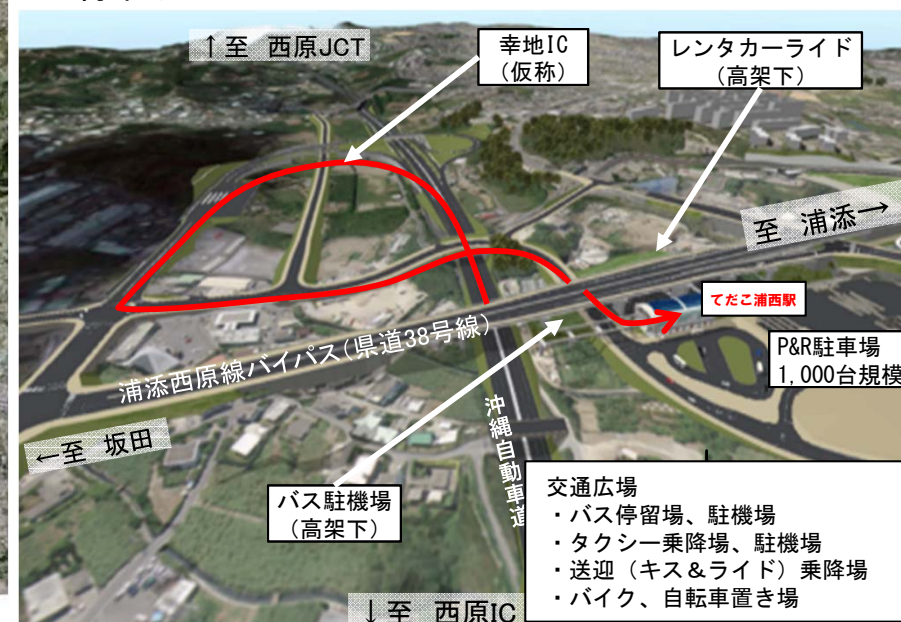
○モノレールてだこ浦西駅では、モノレールと高速バス、パーク&モノライド、パーク&バスライド等、総合的な交通結節点の整備が進められており、モノレールの開業は令和元年10月1日の予定。



○交通結節点における取り組み施策

- ・交通広場の整備
- ・P&R駐車場の整備

■将来イメージパース





- 過度な自家用車依存から脱却を図るためのシンボリックな道路空間として、国際通りで、歩行者や自転車などにも優しい道路空間の再編・創出に向けた検討を実施
- トランジットモールの新たな展開に向けた検討を実施
- 併せて、バス路上混雑、レンタカー流入、荷捌き車両など、渋滞緩和につながる対策の検討を実施
 - ◆平成30年度に駐車場情報の提供を実施。
 - ◆令和元年以降は、貸し切りバス待機所、荷捌き車両対策実証実験、国際通りトランジットモールの賑わい創出に向け更なる取組みを予定

●トランジットモールの状況



●渋滞の状況



●許可車両の停車スペース確保イメージ

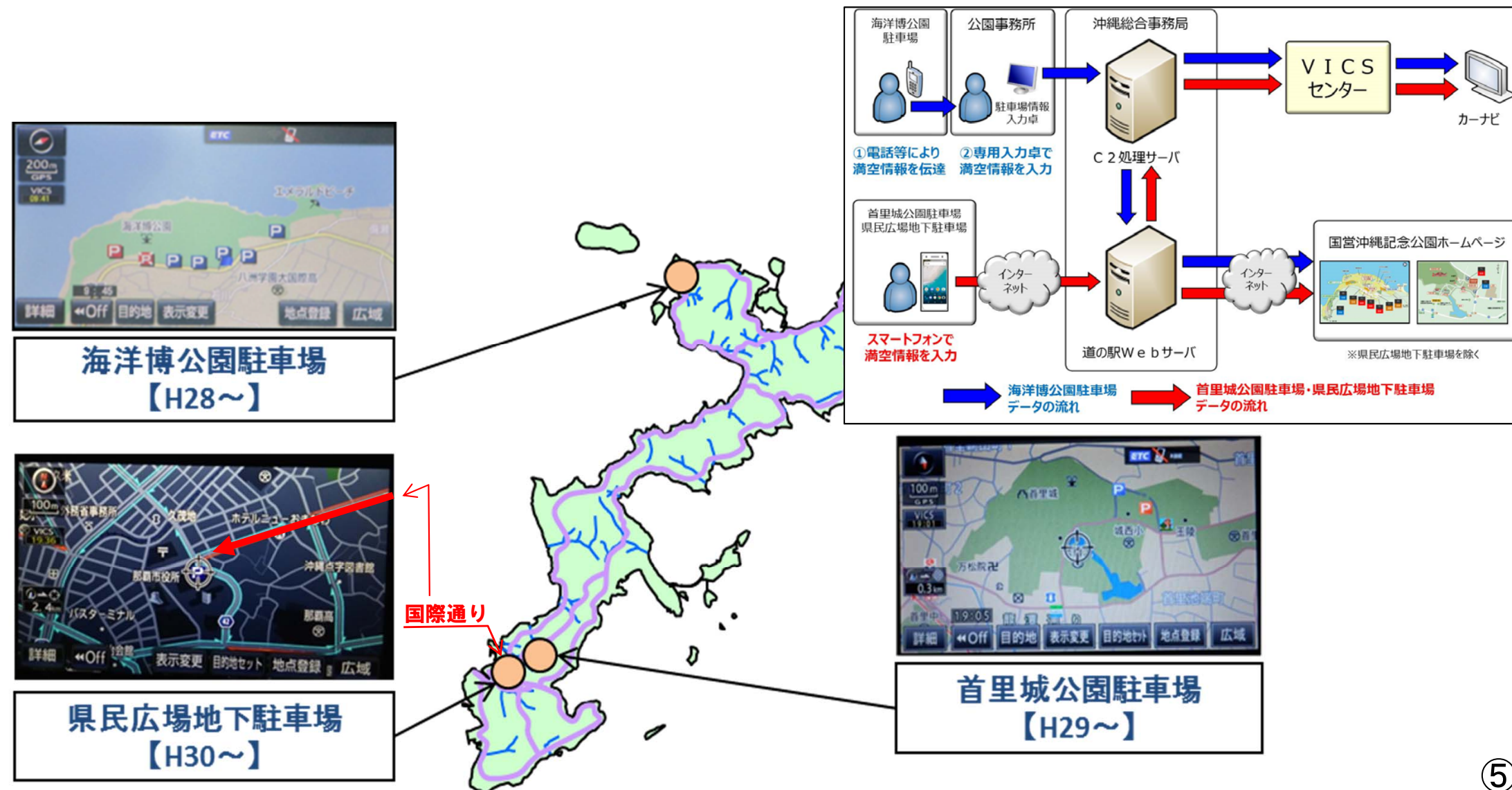


課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】	【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	～H28	H29	H30		H31 (R1)		R2～	
			現況		前期	後期	前期	後期		
道路空間の再編 (国際通り)	27	国際通りのトランジットモールの新たな展開、フリンジパーキングの整備、荷さばき車両、違法駐車対策の検討	実証実験	貸し切りバス路上混雑対策実験事業 短期対策の推進				対策本格導入		
				実態把握	トランジットモール ビジョン(将来 像)策定	改善策の推進				
					荷捌き車両対策調 査対策検討	実証実験実施計画策定		実証実験実施		
					駐車場の満空情報の導 入検討等	県庁前地下駐車 場情報試行	対策本格導入			
					レンタカー 渋滞対策 調査対策 検討	レンタカー 渋滞対策 実証実験等 の実施	信号撤去実証実験(浮島通り他) 効果検証			

5

国際通り周辺における駐車場利便性向上対策(平成30年度実施済)

- 国際通りや首里城及び美ら海水族館の観光地では、観光客及びレンタカーの増加等による慢性的な交通渋滞が発生している。
- 駐車場付近のうろうろ交通を減らすことで道路交通渋滞を緩和する目的で、下記3箇所の駐車場情報をVICSシステム(カーナビ)にて提供する「駐車場情報提供システム」を構築し提供を実施



国際通りトランジットモールの取組:将来像の策定(令和元年度実施予定)

○那覇市、那覇市国際通り商店街振興組合連合会が連携し、国際通りに関わる関係機関の合意の基、国際通りのにぎわい創出のための取組についてビジョンを策定

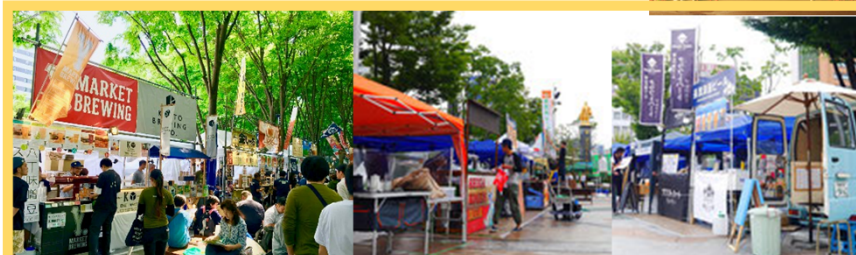
○令和元年度以降連合会では関係機関と連携し、にぎわいの創出に向けて様々な取り組みを検討

取組紹介：国際通りクラフトビール祭り2019（仮称）

- ビジョンに記載されている「a)オープンカフェ、キッチンカーや夜市等の実施」に基づき、賑わいの創出に向けたイベントの開催を予定をしています。

①開催日時：2019年11月10日（日） 12時～20時

②場 所：国際通り
（パレット広場前～蔡温橋(さいおんばし)スクエア）



○国際通りでは荷捌き車両の路上駐停車が地域の課題となっている

- ・ 国際通りにおいては、駐停車両により路線バス等の走行性が阻害され、深刻な渋滞が発生
- ・ 国際通りでは、荷捌きを許可する区間(荷捌き許可区間)と許可する時間帯(10時～15時)を指定しているが、許可区間外で荷捌きを行っている車両が約7割を占めており、また、国際通りにおける駐停車両のうち荷捌き車両が半数以上を占める

○令和元年度及び令和2年度において、荷捌き車両による渋滞に対する実証実験を実施予定。

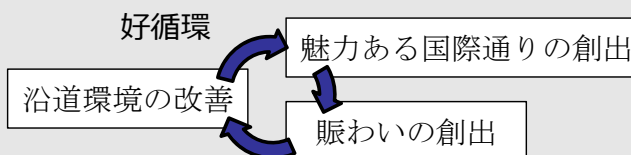
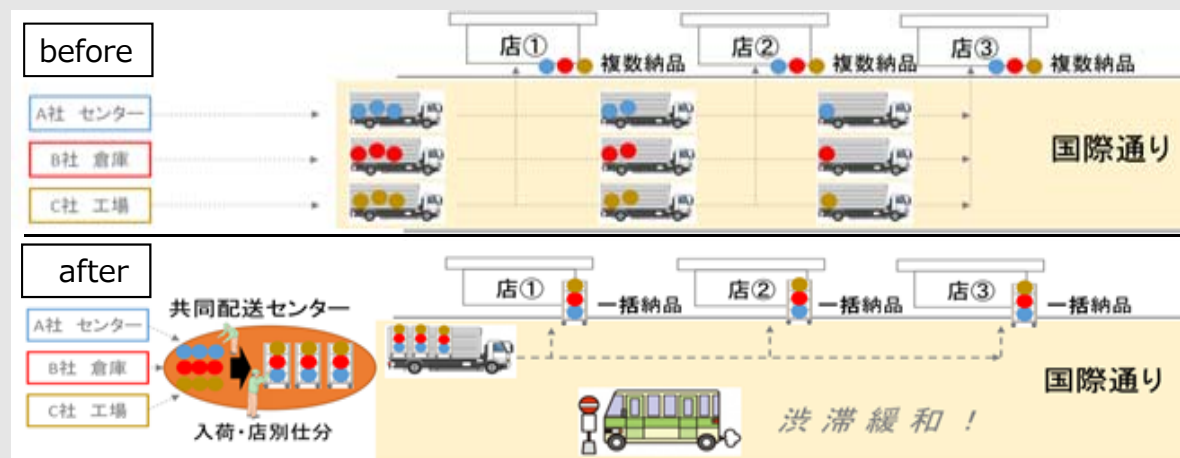


写真：荷捌き車両による渋滞発生状況

○令和元年度の国際通り荷捌き車両渋滞対策実証実験内容

国際通りの一部のエリアにおいて、参加できる事業者、常温で管理できる商品、自社配送車両及び卸売り事業者配送車両を対象とした実証実験を12月上旬のうちの1週間行う。また、事前に国際通りにある商店街振興組合と実験の実施に向けた調整を行うことで情報の周知を図りながら、実験に参加できる事業者を募る。また、実験前には周辺に周知看板を設置するとともに、市の広報やHPに掲載し、広報を行う。

○実験のイメージ



運送業者の配送作業の効率化
配送コストの削減

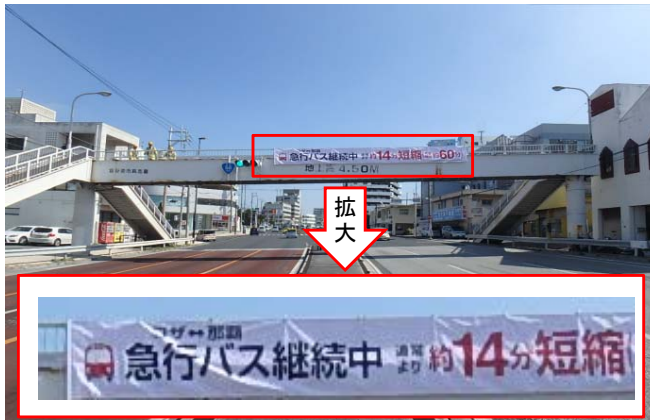
早期成果実現課題⑥ 県民意識への効果的な働きかけ

- 沖縄県子ども生活福祉部において、毎月1日、20日をノーマイカーデーに設定
- 那覇市において、9月16日から9月22日までをカーフリーデーの期間として設定
- 沖縄県において「わった～バス党」法人党員及び公共交通推進等を図っている企業に対し、表彰を実施
- ◆平成30年度まで、沖縄県・沖縄総合事務局等による表彰およびわった～バス大実験を実施
- ◆令和元年度は、わった～バス党の取組として、引き続き広報等の啓発活動を実施。
また、わった～バス大実験は、期間・規模を拡大し実施予定

●表彰(わった～バス党)



●県民広報活動の充実



●わった～バス大実験

参加事業所
募集中!!

わった～ バス大実験

一人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう!!

実験実施期間：令和元年10月中旬～11月上旬

課題	プロジェクト一覧 ※主要プロジェクトには【○】	【関連委員会】 実施主体(◎:主、○:副)	H28時点	H29	H30		H31 (R1)		R2～
			現況		前期	後期	前期	後期	
県民意識への効果的な働きかけ	50	県民の意識に働きかける取組み (わったーバス党の活用、MM 等)	【TDM協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 ◎関係市町村 ◎バス事業者 ◎民間事業者	公共交通利用 促進広報活動 実施 ノーマイカーデー、 カーフリーデー等の 実施	「わったーバス党」広報媒体を活用した県民意識への働きかけ取組強化 (SNSを活用した情報発信等)				
				わったーバス大実験 実施内容検討・実験実施・結果分析					
					学生向け路線バス 利用促進実験調査				
				商業施設 と連携した公共交 通利用促進 実験	商業施設において主体的に実施 (OKICA♡WARD)				
	51	民間企業の取組み支援(わったー バス党の活用等)	【TDM協】 ◎沖縄県 企画部 ◎沖縄局 ◎関係市町村 ◎バス事業者 ◎民間事業者	公共交通 利用促進 広報活動 実施	「わったーバス党」広報媒体を活用した民間企業のPR等取組強化 (渋滞緩和に資する民間企業の取り組み紹介等)				
	52	協力企業の取組みに対する表彰制 度の創出の検討	◎沖縄局 開発建設部 ◎沖縄県 企画部 ◎関係市町村		表彰等制度 の検討(ニーズ 調査、制度の検 討、調整等)	表彰制度の導入、拡充			

わった～バス大実験実施・結果分析（平成30年度実施済）

- 平成30年10月15日（月）～10月31日（水）の期間、118団体、2,476人が参加してノーマイカー通勤や時差出勤に取り組む「わった～バス大実験」を実施
- 実験期間中の那覇市及び周辺市町（浦添市、豊見城市、南風原町、西原町、与那原町）の総渋滞長が5%程度削減
- わった～バス大実験参加者の約7割が「継続したい」、「検討したい」と前向きな意向を持つことを確認
- 令和元度は、これまでの結果や経験を参考に、より効果的・効率的な実験を実施する予定

○実験期間：平成30年10月15日（月）
～10月31日（水）17日間

※平成29年度の実験より、期間、規模を拡大

- 参加企業数：118団体
- 実験参加人数：2,476人
- 延べ参加人数：8,203人
- ビッグデータを用いた交通状況の変化を分析
- 追跡アンケート調査を実施

- ①継続状況調査（実験参加者を対象） アンケート回収数：660票
- ②不参加者調査（実験不参加者を対象） アンケート回収数：174票

○今年度の予定

- ・ 実験時期、実施期間、規模等、実験内容を検討中。
- ・ これまでの結果や経験も参考に実施予定。

※平成29年度実施内容

○実験期間：平成29年9月16日（土）～
9月22日（金）7日間

- 参加企業数：162団体
- 実験参加人数：1,917人
- 延べ参加人数：3,464人

わった～バス大実験 参加事業所
募集中!!

～ 一人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう!! ～

実験期間：平成 **30** 年 **10** 月 **15** 日 ～ **10** 月 **31** 日

わった～バス大実験は、実験期間中に参加頂いた企業や事業所等の皆様に、ノーマイカー通勤や時差出勤などに取組んで頂くことで「かしこいクルマの使い方」について考えて頂くとともに、道路渋滞の減少効果について検証を行うものです。

募集内容

実験期間中に、公共交通機関、自転車、徒歩、あいのり等によるノーマイカー通勤、または時差出勤に取り組んで頂き、実施結果をご報告頂ける企業・事業所等を募集しています。（応募は裏面の参加申込書をご利用下さい）

取組内容の例

- ① 読書しながらバス・モノレール通勤
- ② ラジオ体操に出かけるつもりで早朝出勤（時差：早出）
- ③ たまにはやってみたい重役出勤（時差：遅出）
- ④ 通勤途中に住む同僚をお迎えするあいのり通勤
- ⑤ 自宅で眠っている自転車を使った通勤
- ⑥ 職場の飲み会に併せてみんな揃ってバス・モノレール通勤 などなど

※ 普段の通勤で自動車を利用している職員がおり、実験期間中にノーマイカー通勤や時差出勤に取り組んで頂きアンケートへ回答頂くことが参加条件となります（支店、事業所、部署単位でご参加頂きます）

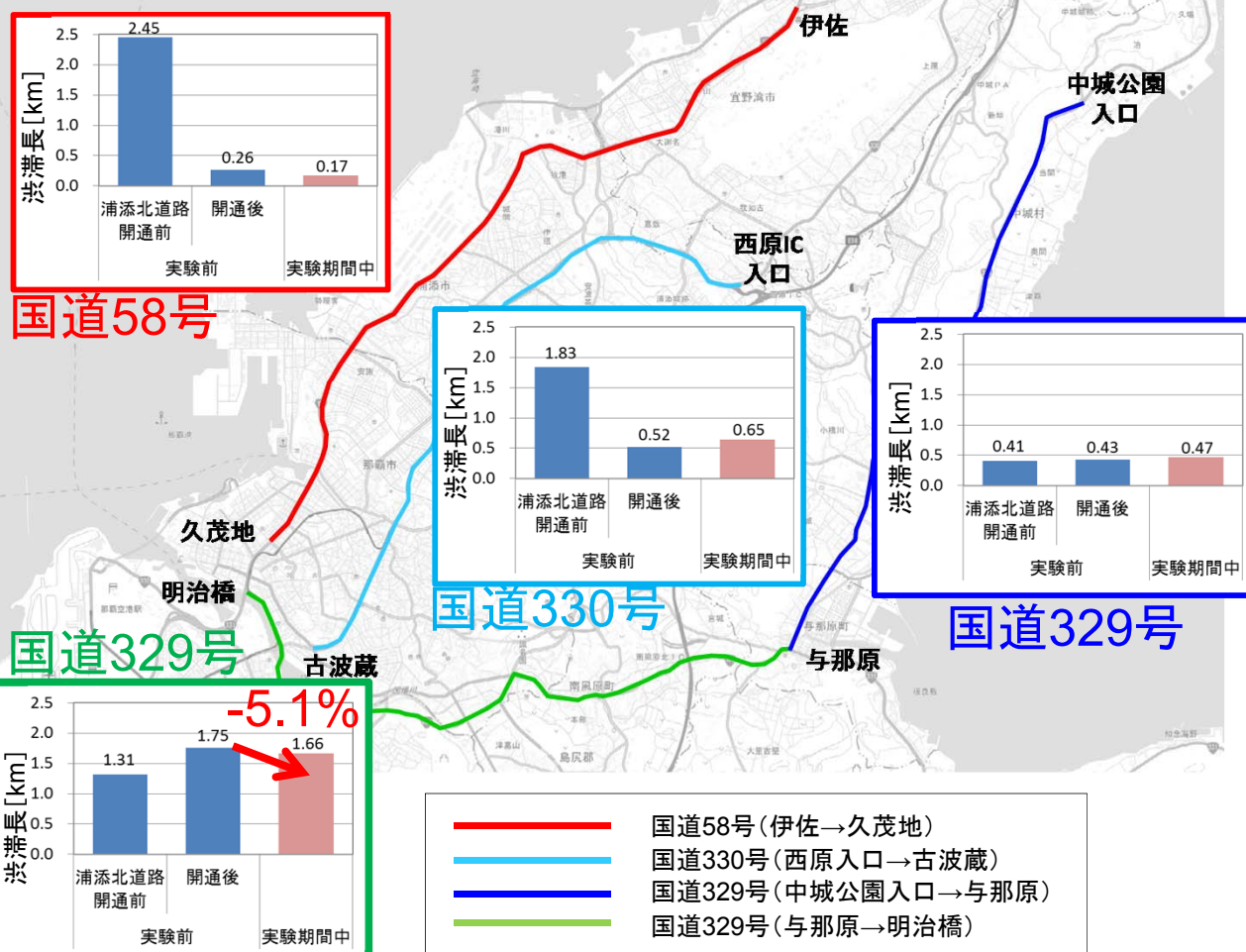
※ 実験期間中であればお一人様1日だけの取組からでも構いません

▲H30実験参加者募集チラシ

- H30.3の浦添北道路・臨港道路浦添線開通による道路ネットワーク整備効果で周辺の渋滞が緩和傾向
- H30.10の実験期間中、都心に向かう主要路線のうち、渋滞長の長い国道329号において約5%程度の渋滞長が削減
- 那覇市及び周辺市町（浦添市、豊見城市、南風原町、西原町、与那原町）の総渋滞長が5%程度削減

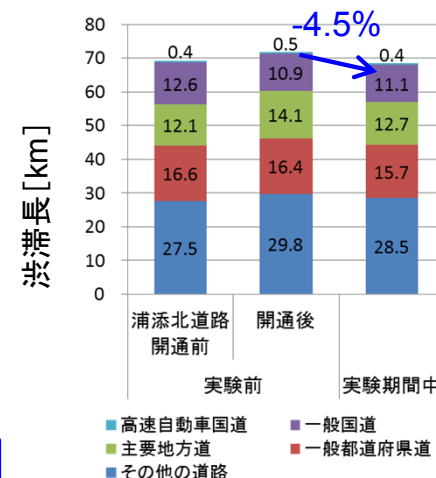
①国道329号の渋滞緩和

- ・浦添北道路等の開通により国道58号、330号の渋滞長が緩和傾向
- ・渋滞長の長い国道329号（都心方向）において、実験期間中は7時台の10km/h未満の特に激しい渋滞の延長が約5%削減

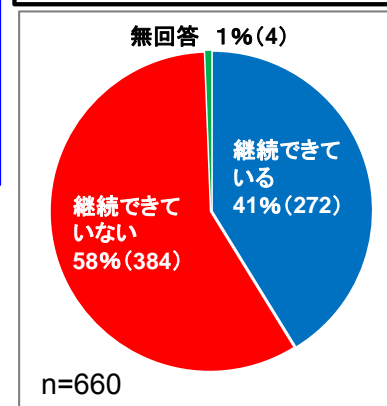


②面的な渋滞緩和

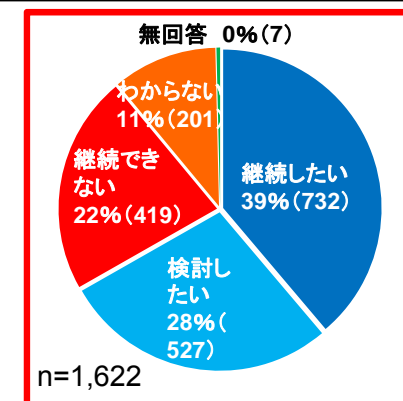
那覇市及び周辺市町の渋滞長の変化



○実験終了後も、アンケート回答者の約41%の方が取り組みを継続



▲取り組みの継続状況



□ 実験終了時アンケート結果

法人党員募集



党員表彰



H30党員表彰（わった〜バス党Thanks Award2018）

- 1株式会社国建
- 2沖縄菱電ビルシステム株式会社
- 3SCSKサービスウェア株式会社

30年度は
3団体を表彰

図画コンクール



バスマップ作成



H30 大学バスマップ2校

わった〜バス向上委員会



- H30①マイカー送迎問題とバス利用促進
②イベントとの連携による公共交通利用促進
③法人党員企業が取り組み可能な利用促進策

○学生を対象としたバス利用意識啓発パンフレットの配布、通学バスマップの配布を行い自家用送迎から路線バスへの転換実証実験を実施。 実験終了後、バス以外で移動していた学生の33%がバス利用へ転換

■学生向けモビリティーマネジメント

H30年度取組内容

- 路線バス利用意識啓発ツールの配布
- 通学バスマップの配布
- 自家用車送迎から路線バスへの転換実証実験

実施方法

モデル校：那覇市内に所在する全高等学校

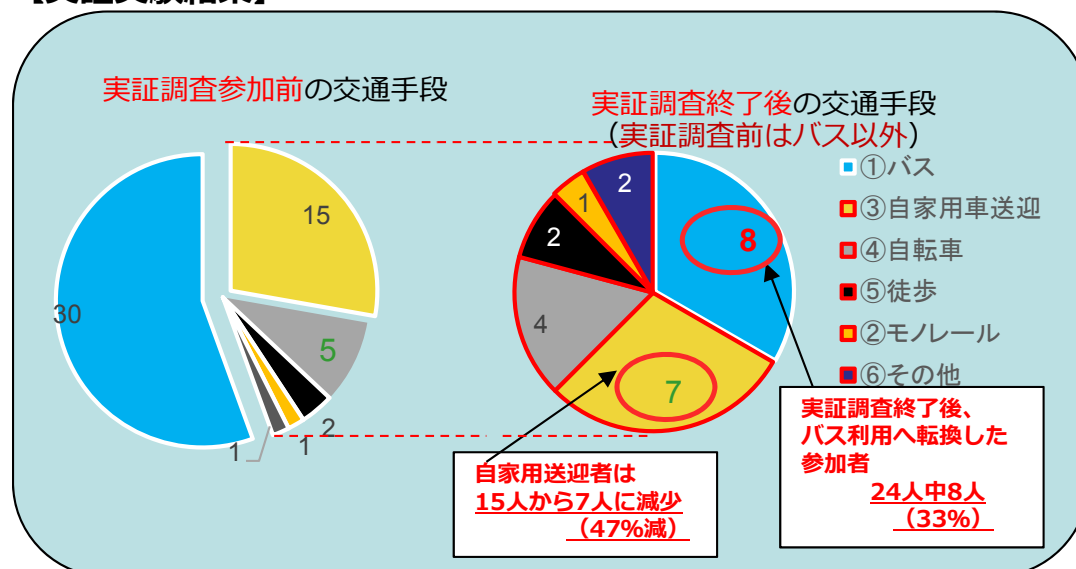
- ・OKICAの貸与を受けて、公共交通による登校
- ・貸与するOKICAへ割り増しチャージ（2割）
- ・通学以外の利用も可能



Smart move プロジェクト

- ・最寄りバス停までの車送迎、徒歩、自転車で、地域全体で車が減り、渋滞が軽減
- ・学校周辺での車の輻輳も軽減

【実証実験結果】



- 令和元年10月中旬～11月上旬にかけ「わった～バス大実験」を実施予定。
- 新たな取り組みとして実験参加者へお得なサービスを提供予定。

わった～バス大実験 2019

～探してみよう、試してみよう、あなたに合った通勤方法～

参加事業所
募集中!!

実験期間：令和**1**年**10**月**中旬**～**11**月**月上旬**

わった～バス大実験は、実験期間中に参加頂いた企業や事業所等の皆様に、ノーマイカー通勤や時差出勤などに取組んで頂くことで「かしこいクルマの使い方」について考えて頂くとともに、道路渋滞の減少効果について検証を行うものです。

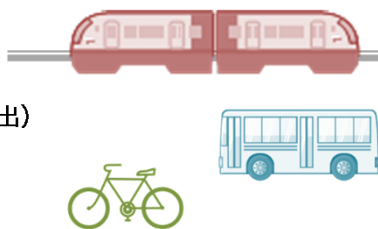
募集内容

実験期間中に、公共交通機関、自転車、徒歩、あいのり等によるノーマイカー通勤、または時差出勤に取組んで頂き、実施結果をご報告頂ける企業・事業所等を募集しています。(応募は裏面の参加申込書をご利用下さい)

取組内容の例

- OK 読書しながらバス・モノレール通勤
- OK ラジオ体操に出かけるつもりで早朝出勤（時差：早出）
- OK たまにはやってみたい重役出勤（時差：遅出）
- OK 通勤途中に住む同僚をお迎えするあいのり通勤
- OK 自宅で眠っている自転車を使った通勤
- OK 職場の飲み会に併せてみんな揃ってバス・モノレール通勤 などなど

※ 実験期間中にノーマイカー通勤や時差出勤に取組んで頂くことが参加条件となります
※ 実験期間中であればお一人様 1 日だけの取組からでも構いません



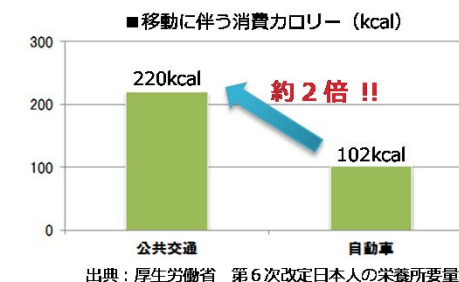
豊富なメリット

今まで実験に参加頂いた方々のアンケート結果からは、取組んだ内容毎に色々なメリットがある事もわかりました。たまにはバス通勤してアフター5にお酒を楽しんだり、時間を有効に使ったりしてみるのはいかがでしょうか？

順位	取組を継続したいと思う理由 TOP5 (平成30年実験アンケートより)	
	路線バス通勤	時差通勤
1位	アフター5でお酒が飲める	時間が有効に使える
2位	健康に良い	健康に良い
3位	駐車場の心配が無い	駐車場の心配が無い
4位	ストレスがなくなる	社会貢献のため
5位	時間が有効に使える	ストレスがなくなる

カラダにも優しい

往復 30km の通勤を考えた時、自動車に比べて公共交通を利用した場合では消費カロリーが約 2 倍も高くなります。これを 1 年続ければ燃焼する脂肪の重さにして約 4.5kg になります。



お得なサービス

お得

実験参加者は、一定の条件を満たすと下記に示すようなお得なサービスをご利用いただけます。

【サービスの一例】

- ✓ 公共交通を利用して来店するとコーヒー 1 杯サービスします。
- ✓ 自転車通勤者に駐輪場所 & シャワーを無料で提供します。
- ✓ 朝活イベント用のレンタルスペースの利用料金を割引します。
- ✓ 公共交通利用者等の実験参加者にノベルティグッズなどをプレゼントします。
- ✓ OKICA♡WARI 加盟店舗から、ドリンクサービスや粗品をプレゼントします。

